

第1期協議会意見と第2期における対応について

1 第1期協議会意見（要点）

（1）ガバナンスの姿が見えない

- ・同じことを何回も指摘しているのに、改善の姿が見えない
- ・ガバナンス体制の可視化が必要。責任の所在と組織関係の問題点の整理が必要
- ・研究部のガバナンス、業績・業務管理の姿が見えない

（2）館としての意見・考え（アウトカム）がわからない

2 第2期における対応

（1）ガバナンスの姿がわかる内部評価（自己評価）へしくみを改める（評価シートの記載内容を改める）。

（2）博物館の組織体制を見直し、第2期中期目標・計画、年度計画の各項目（15項目＋重点項目の計16項目）の所管と責任の所在を明確にする。

（3）評価シートに業務担当者、及び評価者の意見を記載する欄を設け、アウトカムを明確にする。

（4）研究部門の業績・業務の目標・計画を新設の研究戦略グループが所管し、各研究グループの研究主幹、研究部長が管理・統括するガバナンス体制を強化する。また、道費による研究プロジェクトの目標管理体制の一環として、新たに「研究課題評価」を開始する。